

みんなげんき

令和6年3月8日

みんな元気！この調子で学年をしめくろう！

春のようにあたたかと思えば、雪がちらついたり冷たい雨がふるなど、不安定な天気がつづいていますね。2月は、かぜやインフルエンザ B にかかり、欠席する人がいましたが、欠席者が増えることなく過ごすことができました。

京丹後市では現在も、発熱やインフルエンザ B の増加により、学級閉鎖をしている学校があります。そのような中、峰山小学校は欠席者が少なく、みんな元気に学校生活を送ることができているのでとてもうれしいです。

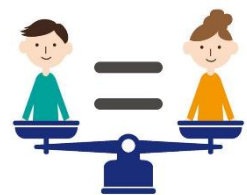
今年度もあとわずかとなりました。3月は節目の時期です。気持ちよく今の学年を終えられるよう、引きつづき感染予防に気をつけ、残りの日々を大切に過ごしてほしいと思います。



おうちの方へ

心・体・命の学習のようす

発達段階に合わせて、自分の体のこと、命の始まりやつながり、命の大切さ、お互いの性の尊重など学習しました。ここ数年は、ジェンダーや性の多様性についても考える学習を取り入れています。



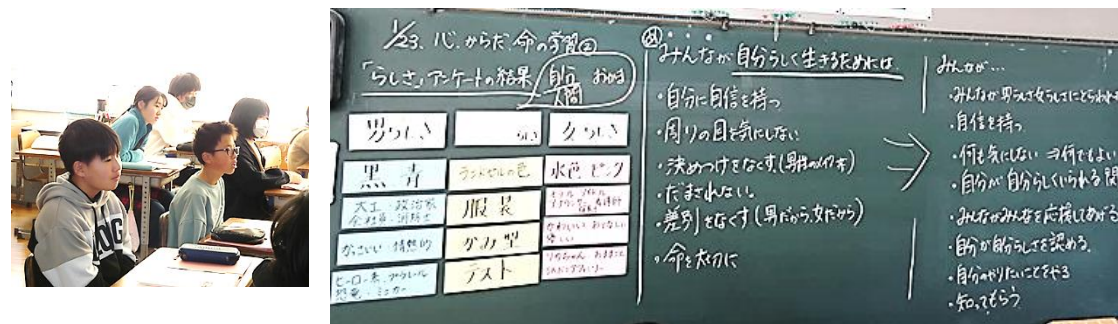
この内容については、子ども達の方が柔軟に受け入れているようです。保護者の方の感想にもありますが、私たち大人が考えていかなければならない課題だと思います。

心体命の学習、とても考えさせられる学習です。いろいろな多様性が求められる世の中で、子ども達の方が親世代の私たちよりよく理解していると感じます。ついつい、しつけのつもりで言っている言葉も凝り固まった考え方だと反省です。

授業参観では、男だから女だからと決めつけてはいけないという授業でした。女の子だから〇〇色が好きじゃないかなと、普段の生活の中で思うこともあります。改めないといけないですね。自分に自信を持ってほしいと思いました。

6年

心体命の学習の総復習となる「命を見つめ、自分を見つめる学習」では長い歴史の中で受け継がれてきた命の大切さに気づくことができました。性の多様性「みんなが自分らしく生きるために」の学習は、一人ひとりが真剣に考える時間となりました。



- やっぱり互いを受け入れることをすれば、人が傷つくことなく、自分らしさを自分で認めることができると思った。
- みんな一人ひとりの違いを認め合って生きることが大切で、これはずっと私たちが大切にしてきたこと。どんな人でも、理解し合って関わっていけるようにしたい。
- 自分や友達、一人ひとりのちがいを認め合って自分らしく生きる。自分らしく生きるためには、自分だけががんばるんじゃなくて、周りの人も支えないといけないことがわかった。

5年

大人に近づく体（第二性徴）や心の発達・思春期の心の変化について、保健（教科）を中心に学習しました。「性と社会」では、SNS などを通じた被害について学びました。

性の多様性についても学習し、子ども達は「感じ方や考え、表現の仕方は人それぞれであり、違いや互いを認め合うことが大切だ」と結論づけていました。

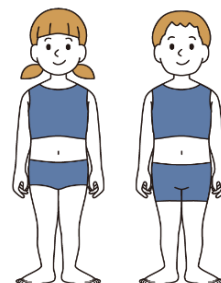


- 今回の授業で LGBT のことを言えない人が多数いることを知りました。なので、これから社会や自分たちは、受け入れて応援したほうが良いと思いました。このことを考え、これからの社会は LGBT についてみんなが安心して言えるように僕たちで変えたいと思いました。

● 男らしく女らしくとかを決めつけると他人を困らせたりするんだということ、自分らしく生きていけばいいんだと思った。みんなのちがいを受け入れようと思った。

1年

はじめての心・体・命の学習です。体の名称と働き、男女の体のつくりや違い、プライベートゾーンなど、自分の体を知ることから学びを進めました。



“おへそってなかに”の学習では、知っているようで知らないおへその秘密に子ども達は驚くばかりでした。「お母さんが動いたら、赤ちゃんも一緒に動くの?」「お母さんのおへそと、ぼくたちがつながっていたんだ。」とおへその働きを知ることで、お母さんのおなかの中で大切に育てられたことに気づきました。

2年

「赤ちゃんのたん生」の学習では、お父さんにも赤ちゃんのもとがあることや命の始まりがすごく小さいことに驚いていました。お母さんのおなかの中にいる時から、大切に育ててもらった大切な命であることに気づくことができました。



●生まれた時のいのちやせいしとらんしの大きさが、小さくてびっくりした。せいしとらんしがひとつにならないと、いのちがはじまらないことがわかった。

●赤ちゃんって、10か月もお母さんのおなかの中にいたんだね。おもたくなっていく赤ちゃんが、おなかの中にいながら

うごいたり、ごはんを作ったりしていたなんて、お母さんって本当に大へんだっただろうね。自分のいのちを大切にしたい。



「女だから、男だからってなかに」の学習もしました。2年生なりにしっかり考えることができました。

●わたしはぜったいに自分がしたいことを、自分らしく自由にしたいということがわかった。女だから男だからなんてかんげいなし、自分が好きなことを自分できめる。いろいろな話をきいて、男も女もかんげいなしということがわかりました。

3年

4年生で第二性徴の学習をする前に、体の中（臓器・性器）と外（外見の変化）の共通点と違いについて学びました。少し恥ずかしさもあったようですが、真剣に学習することができました。



●女の子と男の子で、同じところやちがうところがあることを知った。体つきもちがうのも知った。

●ぼくには何人のおじいちゃんおばあちゃんがいるのだろう。

●命は大切だと思っていたけど、もっと大切に思えてきた。

「命の始まり」の学習では、ほとんどの生き物は二つの性があること、自分たちの命はずっと前から受け継がれた大切なものであることに気づくことができました。

4年

思春期にあられる体の変化、二次性徴のしくみ（射精や月経）について学習しました。体つきの変化について正しく学ぶことで、不安が取れたという児童もいたようです。



●男性は肩はばやがっしりとした体つきになることをはじめて知った。子どもころは、男性のほうが小さくても、後で大きくなるのがうれしかった。ホルモンやいんけい、精巣、精子、射精、精通など、はじめて聞く言葉がいっぱいあった。もし、女子がおなかがいなくなったりしたら、たすけてあげる。

- 自分にいつ起こるか気になる。たくさん知れてよかった。
- 女子は赤ちゃんを産む体になるなんてびっくりした。
- 女性は痛いときもあるのに、がまんしているのがすごいと思った。



これまで男女別に実施していた二次性徴の対処の仕方について、今年度は“命をつくり出す体”という視点で、男女一緒に担任と養護教諭が指導しました。自分の体に起こる変化としてしっかり受け止め、男女のより良い関係を考える時間となりました。